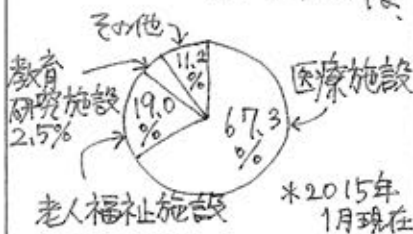


# 中リ八通信 4「理学療法士の仕事」

理学療法士(PT)は、主に病院や老人施設で働いており、その他、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、教育・研究施設、行政関係施設などで働いています。



理学療法士の目標は、立つ、歩くなどの基本的動作能力の回復にあります。食へる、着がえるなどの日常生活における活動の改善を図り、最終的には生活の質(QOL)向上をめざします。

病気が、そして加齢によって身体の機能が低下した方々に対して理学療法を実施します。最近では、運動機能の低下が予想される高齢者の介護予防などにもかかわることがあります。



対象となる主な疾患は、脳卒中・脊髄損傷、小児発達障害などの「中枢神経疾患」や、骨折・椎間板ヘルニア、変形性関節症、靭帯損傷などの「整形外科疾患」、慢性閉塞性肺疾患(COPD)や肺炎などの「呼吸器疾患」、心筋梗塞や心不全などの「心疾患」、糖尿病やメタボリックシンドロームなどの「内科的疾患」などです。

PTは自分自身の「目」や「耳」そして「手」を使って患者さんの状態を評価します。

患者さんの訴えは、言葉だけではなく、表情はもちろん、動作や血圧・脈拍などにも表れてきます。外面だけでなく、内面にも注意を払っていく必要があります。

歩キづらい原因は何だろうか？  
関節が曲がらない？筋力が弱い？

確かに、膝の関節は、



病気や体の状態を把握するためには、患者さんからいろいろなことを聞きすることも必要です。そのためにはコミュニケーション能力も欠かせません。

患者さんの中には、体の不調のせいでは落ち込んでいる方もいます。このような場面では、患者さんの気持ちを探る配慮が必要になります。

このような配慮も行いながら、患者さんからたくさん情報を集めます。

これらの情報を、医師、看護師など多職種間で共有し、患者さんの健康的な生活の回復に向けてチームでかかわっていきます。

PTは、そんな医療・介護チームの中のひとつの職業です。患者さんやご家族の支えになれる、とてもやりがいのある仕事です。

